

アメリカ刑事司法の一断面(1)

庭 山 英 雄

一、はじめに

松尾式之著『不思議の国アメリカ』（一九八八年）は全米五〇州をニューヨーク、中西部、南部、ロッキーマウンテン、南西部、西海岸の七ブロックに分けている。その一つである中西部を評して著者は次のように言う。「中西部の平均的アメリカンのイメージは全世界に伝わっており、世界の人々が何げなく考える『アメリカ人』のイメージは、実は中

西部人のイメージであることが多い。……実際アメリカ自身も中西部的なものをもって、アメリカの代表としているふしがある。最も典型的なのはアメリカの言葉であろう。いつの頃からか、標準的なアメリカ英語というのは、ボストンやニューヨークの英語ではなく中西部の英語ということになった。」（同書八頁）

このことは私自身おぼろげながらかねてから承知しており、機会があったら中西部の刑事司法を実体験したいと願っていた。だから本年四月、法学部の同僚で国際法担当の山崎好士助

教授がオハイオ州南端のシンシナティ市にあるシンシナティ大
学カレッジ・オブ・ローのアーバン・モルガン人権研究所 (Urban
Morgan Institute for Human Rights, College of Law, Uni-
versity of Cincinnati) に留学が決まったとき「べきたらシンシ
ナティ警察とコンタクトをとって欲しい」とお願いしておいた。
おそらく駄目であろうと半ばあきらめていたところ六月早々に
「シンシナティ警察で受け入れオーケー。期間は一九八八年八月
一日から一週間」との連絡が入った。山崎氏の説明によれば、
たまたま寄宿先の主人に私の希望を話したところ、その主人が
署長を知っていてたちまちコネをつけてくれたという。全くの
好運であった。

一九八八年七月二八日午前一一時四〇分に勇躍大阪空港を立
ち、途中東京・シカゴで乗りかえて同日午後五時五十分シンシ
ナティ着、空港で山崎家一同の歓迎を受けた。同夜は宿舎の
Calhoun Residence Hallで休息、翌朝から早速活動を開始し
た。まず地図を買ってきてこれから訪問予定の諸官庁の位置を
確認、午後徒歩とタクシーとで警察署、検事局、連邦裁判所、
郡裁判所、市裁判所、拘置所、公設弁護士事務所、刑務所と一
巡した。そして同夜、電話帳を繰って市警察の部課構成を調べ
た。

Crime Prevention Unit 352-3514

Crimestoppers 352-6460

24 Hrs A Day—7 Days A Week

Criminal Investigation Section

24 Hrs A Day—7 Days A Week 352-3542

Auto Theft 352-6468

Burglary 352-3543

Checks-Fraud 352-3545

Criminalistics Squad

8 AM To 4 PM Daily 352-3555

Homicide-Rape 352-6465

Robbery

Weekdays 8 AM To 4 PM 352-3540

Property Room

Weekdays 7 AM To 3 PM 352-6480

Youth Aid-Rape

7 Days A Week 8 AM To 11 PM 352-6474

DEA Task Force 352-3673

or Call 684-3671

Vice Control

Weekdays 8-4 352-2555

Others 352-3452

Warrant/Identification Unit 763-5190

右のディレクターをじつと見ているといろいろなことが頭に浮かぶ。麻薬やアルコール対策に力を入れていること、捜査では重大詐欺犯罪が問題になっているらしいこと、犯罪捜査学の陣容が整っていること、中でも殺人、強姦に力が入れられていることなどである。それはさておき実習の重点をPrevention, Investigation, Criminalisticsの三点におくこととした。

右の作業と併行するが、大学の近くの本屋に行きAllen and Kuhns, Constitutional Criminal Procedure, 1985を始めとしてCriminal Procedureと名のつく本は全部購入して急ぎ目を通した。日本にいるとき、それから機中でもリード・井上・山室共著『アメリカの刑事手続』(一九八七年)を何度も読んで予備知識を蓄えたが、これはテキサス州を中心とする刑事手続についてであった。私としてはオハイオ州の刑事手続の特徴をつかみたかったのであるが、右の市販の本では果せなかつた。せいぜい大学のライブラリーで州法を一覧するにとどまった(帰国してから克蘭プマーテンス著井上正仁監訳『ある強盗事件の軌跡—アメリカの刑事司法』(一九八八年)に接し、事前にこれを読んでおけばと思つたが、あとの祭りであつた)。しかしすでに心の準備は整つていた。

八月一日午前一〇時、山崎氏の案内で警察署(Cincinnati

Police Division)に出頭した。まず型どおり各部署の責任者に

あいさつしたのち広報係のN氏から午前中いっぱい同警察の生いたちと組織とについて説明を受けた。それらを紹介する前に中西部について少し説明しておく必要がある。いわゆる中西部とは五大湖の西方、南方および西南方に広がるミネソタ、ウイスコンシン、ミシガン、ペンシルバニア(西部)、オハイオ、インディアナ、イリノイ、アイオワ、ネブラスカ(東部)、カンザス(東部)の一〇地域をさす。地理はほぼ平坦で人口は約六千万人。ドイツ系、北欧系、イギリス系が基本だが都市部にはポーランド系などの東欧からの移民も多い。そしてオハイオ州は右の一〇地域の中でも最も「アメリカ的」と言われる。私がシンシナティに期待した所以である。

二、シンシナティ警察の歴史(戦前)

シンシナティはアメリカ独立一二年後に入植が開始され、長い間辺境の町(旧名ロスアンティビレ)として知られていたが、一八〇二年に人口約八〇〇〇人の町(法人組織)として発足した。その時まではワシントン砦の軍人らが必要に応じて「防衛」の任に當つていた。町創設の初期には犯罪はほとんどなく、交通

問題も発生していなかったので住民は警察のようなものの必要性を感じていなかった。町の発足後は保安官(Marshal)が毎年選出されてはいたが、実際の警察活動は一八〇三年に大火が起きて町議会(Council)が夜警を設けるまで行われていなかった。二一歳以上の男性町民は無給で順に夜警(毎夜一二名宛)を勤めた。彼らは毎夜八時に夜警詰所に集まり、二組にわかれてパトロールに従事した。パトロールにさいしては各人が角燈とラトル(音が出るもの)とを携帯した。いざという時警報を発して助力を求めためであった。

シンシナティが急速に発展するにつれて、強制的な夜警の仕事に疲れた一部の町民が職業的夜警の制度を設けるための基金を集め始めた。一八一八年のことであった。その年に条例が通って隊長(Captain)一人と夜警係六人とが任命された。彼らは逮捕権限を与えられ、また街燈を手入れして夕方に点火する役目も与えられていた。その翌年一八一九年に人口約九千人の市に昇格した。市域は南はオハイオ川、西はミルククリークそして北はミルククリークからオハイオ川に至る一直線までであった。一八二六年までには夜警隊は二人の大尉と一八人の隊員へと成長した。一八四二年には夜警隊を補うため二人の昼間勤務警備員が加えられた。彼らの日給は一・二五ドルであり、夜警員のそれは一ドルであった。一八五五年までには隊員数は一〇〇、

市の人口は一三万五千へと増えていた。その年に初めて刑事が誕生し三名の隊員が捜査専従となった。一八九四年には遂にすべての財産所有者に税を課する条例を市議会は成立させた。警備員の給与支払のためであった。このようにして市の納税者に対し直接責任を負う最初の「警察隊」が生まれたのであった。

初期の頃から警備員は町もしくは市の保安官(任期一年もしくは二年)の監督下にあった。一八五九年に市保安官の職は廃止された。警察委員会(五人構成で無給)のもとに首席警察官の職がすでに設けられていたからであった。一八五三年以来保安官の職は政略によって重要性を失っており、首席警察官職は保安官職を発展的に継承したものにすぎなかった。しかしその名称も一八七三年に警察監察官へと変った。警備員と警察官との任免は当初から政治的色彩を帯びており、市長職にある者の意向にそわなければならなかった。これを是正するため一八七三年には四人構成の委員会―同会は市長と首席警察官との権力を奪った―を選挙で決める法令が作られた。この委員会は短命で一八七四年には廃止されて再び市長が権力を握った。しかしながら市の警察部局は州法によって一八八六年に政界から切り離された。同法が警察隊の監督を強化するため中立的な警察委員会を設立したからであった。

この委員会はオハイオ州知事の任命にかかる四人の委員から

成り、同知事は委員を罷免する権限をもっていた。委員の二人以上は同一政党に属してはならなかった。警察官の任用と昇任とは政治とは無関係の能力評価によって行われ、すべて委員会の承認をえなければならなかった。委員も警察官も政治活動は禁じられた。市長は直接に警察を監督するとともに、その活動方針に対しては責任をとった。

一九〇三年には首席警察官の地位は再び確立され、警察委員会と消防委員会とは合併して公共安全委員会が作られた。しかし六年後にこの委員会は廃止され、治安局長が任命されて警察、消防、福祉その他について責任をとることとなった。

一九一〇年には任用・昇進における業績主義が現行公務法の成立つまり公務委員会の設立と公務審査官の任命とによって強化された。当時シンシナティの人口は三六三、五九一人で六四三名の警察官が四九平方マイル(当時の大体の市域)をパトロールしていた。

その年までに警察内部でも多くの改善が行われた。ふり返ると、一八五六年には制服が初めて採用された。被逮捕者の登録制度が一八六三年に始まり、一八七三年の犯罪人写真集創設のもととなった。一八六六年には警察電報のダイヤル方式が採用され、ベルが特許をとってちょうど二年後の一八七八年には電話が採用された。翌年には全部門をつなぐ交換装置が設けられ、

シンシナティ警察は電報を電話に切りかえた最初の警察としての栄誉を担った。

一八八一年には馬車によるパトロールが組織されたが、これは全国で二番目であった。一八八六年には再編成が行われ、正式に刑事局が作られ、騎馬警官パトロールが徒歩によるそれに取って代わった。それから数年後には現在の警察に見られる種々の設備や方式の導入を見た。これらには警察官用体育館、軍隊式のドリル(恒例の観閲パレードを飾る)、正式訓練用教室、警察手帳(各種法規や職務指針も記されている)、検査局(定期に身体ならびに心神の検査を行う)、図書室および表彰制度が含まれる。

一八九二年にはベルティオン式人体測定法(犯人識別法)を扱う部が設立された。その後、指紋による人定方式(一九〇四年のアメリカへの導入直後に採用された)の発展に伴い、この部局は一九一二年に人定部となった。

一九〇九年に最初の車が市警察によって購入され、利用された。一九一二年には正規の車輛隊が作られ、その翌年にはオートバイも用いられるようになった。パトロール馬車がモーターつきワゴンに取って代わられたのは一九一三年であった。一九二四年までに馬はロードスター車に、さらに一九二八年にクーパー車に置き換えられた。

一九二〇年までに市の人口は四〇一、二四七人に増え、警察官も六九六名に増えた。一九二六年一月には市政府によって市憲章が制定され、市行政の他の分野と同じように警察も直接に市長の監督下におかれた。一九三〇年には治安局長の地位が回復され、警察隊は市治安局の警察部門と位置づけられた。

一九二七年には警察分区の数が一〇から七に減らされ、各分区の責任者の地位が創設された。すべての交通問題の管理は各分区から除かれて交通局長の指揮下に移された。またその年にテレタイプによる内部連絡組織が設けられ、三八口径のピストルを携帯できる現代的な制服が採用された。翌年の一九二八年にはダウンタウンに交通信号燈が設置され、以前、手や笛で交通整理していた警察官は混雑のひどい個所を短時間パトロールするだけでよいこととなった。

また一九二八年には中央記録部が設置され、統一犯罪記録委員会（国際警察本部長協会に属する）の勧告にもとづいて新たな記録システムが作られた。このシステムとその一環である犯罪分類ファイルとが大変有効とわかったので、それらは統一報告制度（一九二九年に全国の主要警察で採用済）確立のための基礎的作業と見なされた。かくして近代的記録制度に新境地を開いたシンシナティはこの分野での発展に重要な役割を果たした。それ以来統計がきちんと採られて他の警察に比して遜色の

ないものとなった。

一九三〇年には連邦の統計は市の人口が四五一、一六〇に達したことを報じた。警察官の人数も六六二名に上った。一九三一年には通信手段もかなり発達して警察のラジオ局も二年がかりで完成した。

同年には市の定年制度が確立し、警察職員に対する定年基金に取って代わった。一九三三年には市全域にわたる治安パトロールが組織され、翌年には交通事故による死傷が増加し続けたので初めて交通事故調査班が設けられた。交通事故捜査部が正式に設けられたのは一九三六年であった。同部には特に訓練された人員が割りあてられ、カメラ、メジャー、赤色せん光合図灯、救急箱等をもつ車が配備された。

一九三四年にはもう一つの注目すべき改善があった。それは法科学研究室の設置であり、そこには弾道検査、X線、嘘発見機、顕微鏡、型とり器(montage)その他の機器が備えられている。一九三五年には警察クレディットユニオンが全米の警察で初めて作られた。翌年一月には中央署が市役所内に復活した。被逮捕者すべての登録と留置とを一か所に集める（それまで七か所に分かれていた）ためであった。一九三六年には警察官数は六三三、翌年には七一四に達した。

一九三七年前半に市は歴史始まって以来の大洪水に見舞われ

た。オハイオ川が八〇フィート(限界線上二八フィート)も増水したのであった。二四平方マイルの市域が水をかぶり、浸水は五二マイル先にも及んだ。これは大きな災厄であった。しかし連邦軍と沿岸警備隊との助力をえて警察は非常事態宣言なしにこれ乗り越ることができた。その年にピストル試射場が戸外に作られ、射撃優秀賞(年間)も発足した。

一九三九年には市域で急速に深刻化した少年非行に対処するため二つの重要な手段がとられた。すなわち少年クラブ活動がシンシナティにも導入され、自転車安全クラブも特別に訓練された警察官によって学校毎に始められた。訴訟があつて遅れていた市の強制車検場もその年にオープンした。翌年一九四〇年の連邦統計によれば市の人口は四五五、六一〇人、警察勤務者は七三二名に達した。

一九四一年には判決によって警察定年基金が復活し、警察官は市定年制度の適用外とされた。その年にパーキングメーター設置がスタートし、一九四二年には緊急戦争状態に対応するため民間防衛隊の編成準備が始まった。二相のラジオと無線電報とが導入されたのも同年であった。また同年には夏冬兼用制服(兼用は初めて)を含む装備とピストルとを新入りにも与える政策が決まった。

少年犯罪予防部(爾来なんども改名)は一九四三年に作られ

た。その年、シンシナティは全米交通安全コンテストで一位となり、オハイオ州のコンテストでは次点であった。一九四四年には民間防衛隊の解体に伴い、召集によって弱体化していた警察力を強化するため警察予備隊を設置した。またその年にラジオのFM化が始まり、一九四九年に完了した。一九四四年の終りには警察隊旗に一五九個の星(出征している同僚数を示す)が記されていた。一九四五年にはキラー式ポリグラフが鑑識課に導入を見た。

一九四五年八月半ばに終戦。多くの同僚が職場に戻ってきた。そして職場は再び活気を取り戻してきた。しかし現在の姿になるまでには幾多の試練を経なければならなかった。

三、シンシナティ警察の歴史(戦後)

一九四六年の初期に婦人警官が初めて採用された。ロックランドに射撃場が設けられたのもその年であった。一九四七年には他の警察と協力して作業する捜索願処理班が少年部の一環として設けられた。一九五〇年の終りには新らしく六つの警察公舎がエリー通りに設けられた。統計局は市の人口が五〇三、九八八人に達したと発表した。

一九五一年には週の平均労働時間が四八時間から四四時間に減らされた。またその年、自動車輸送部は独立単位としては廃止され、その仕事と人員とは地区警察に移譲された。一九五二年の初め、スピード違反検挙のためレーダーが採用されて効果を挙げた。警察訓練教室はポリスアカデミーと名前を変え、第二分区公舎二階の新校舎へと移転した。

一九五五年初めにはリンカンパークの公舎の供用が開始された。そこには幹部用宿舎のみでなく少年部、交通部および分区本部が設けられた。同時に分区の境界の見直しも始められた。同年の後半には犯罪予防部、記録課および人定課が市役所の空部屋に移った。いくつかの課がリンカンパークに転出していたからであった。

一九五五年に一団の警察官見習が初めて採用された。一九五六年四月には週四〇時間制の採用を見た。一九五七年一二月には第五分区のための新公舎がルドロー通りに開設された。一九五九年四月には一名の巡査部長と一〇人の巡査係とから成る機動班が独立のパトロール隊として発足した。連邦の統計によれば一九六〇年に市の人口は五〇二、五五〇に達した。また同年に狂犬対策班設置の動きが起り、翌年には同班は機動班と協力して実際に活動を開始した。一九六六年にはスペシャリスト制度（警察官同様に宣誓義務あり）が発足した。

一九六七年には警察官見習教育のための協力制度が市警察とシンシナティ大学との間で作られた。その年の一〇月末には教員指導プログラムが九六の公立校と六〇の教区校とに向けて始められた。市警察が自動車を利用して以来初めて、そのカラーがダークブルーからライトブルーへと変更された。

一九六八年の夏から制服警官にも半袖白シャツの着用が許された。翌年三月には地区犯罪情報センターが活動を開始した。同年六月には警察本部長の国際組織によって出された報告書にもとづいて部課の再編成が行われ、新しい犯罪予防対策部が発足した。また広報活動プログラムがすべての警察分区に広げられた。

一九六九年八月にリンカンパーク公舎の増改築が始まった。同年一二月には市役所に残っていたすべての警察部局が拘禁機関を除いてセントラルパークウェイの新ビル (Alms and Doep. Co.) に移った。

一九七〇年初期には第二分区が第一分区に吸収された。その結果分区数は六つとなった。市の中心部も初めてオートバイによるパトロールの洗礼を受けた。この年の暮に最初の婦人警官が退職した。また婦人警官用制服が採用された。ジェイコブ・シヨット首席警察官が亡くなってシンシナティ警察も大打撃を受けた。

同年一月には警察本部に新しい通信課が設けられ、ステーションXに取って代わった。個人用相互通信ラジオ(上着襟装着マイクロホン付)とアイゼンハワー型上着とが標準装備として導入された。

一九七一年にカール・グッディン首席警察官が着任した。フォード基金から四七八、一〇〇ドルの援助をえて“Com-Sec”として知られる新しいパトロール技術が導入された。ただし第一分区で一定限度においてであった。他の援助によってコミュニティとの関係強化のためのプログラムと車とが備えられた。

一九七二年には六つの分区すべてにおいてオートバイパトロールが始まった。この新方式は犯罪予防とPRとにおいてきわめて効果的であった。同年一月には飲酒運転問題に対処するため連邦からの援助で飲酒運転対策プログラムが作られた。大量分類方式を利用することによって短時間に一指紋や顔写真(mug shot)から犯人を突きとめられる新鑑識方法がスタートした。

一九七三年には三〇〇万ドルにのぼるフォード基金援助をえて、また初期の成功に勇気づけられて“Com-Sec”パトロールが第一分区全体に広げられた。この方式の基本目的は市民と警察との協力を強化して安全な社会を築くことにあった。同時に

第五分区において新捜査方式の有用性を判断しようとするパイロットプログラムが進められた。一九七三年には捜査技術訓練計画がスタートして翌年まで継続、警察官全員に最新の捜査技術が伝えられた。同年には市の弁護士の協力をえて正式に法務課が作られた。一九七四年一月施行の新オハイオ刑法典に即してこの課は効果的な訓練計画を策定した。

地域分割パトロールは一九七四年に最初の年間計画を完了したが、成功と評価された。そこで同計画を他分区に広げるプランが作られた。

一九七四年春、大きなたつまきがシンシナティの各所を襲い、とくにセラーパーク地区に深刻な被害を与えた。他の市、郡、州および私的機関の応援をえて市警察は必要な救援活動を組織した。

一九七五年初期に第四分区と第七分区とが結合して新たに第四分区を作り、レディングロードに署を構えた。同分区の諸施設は住民と警察とから成る特別委員会でプランが練られており、アメリカで最も進んだ設備の一つと見なされた。一九七五年には第三と第五の分区とが第一に結合されたが、これはパトロール地区の再編に合わせたものであった。

一九七六年はシンシナティ市および警察にとって特別な年であった。通常の業務に加えて次の多くの催しにさいし綿密な保

安と群集管理とに任じなければならなかったからである。市創設二百年祭、ナショナルリーグ始球式、ワールドシリーズ、地方・州・連邦レベルの各種選挙（多くの候補者と訪問者が集まる）などなど。

連邦創設二百年祭の年も忙しい年であったけれども、市民と警察との協力により犯罪発生率を六・八五％減少させるのに成功した。

全米の市と同様にシンシナティも不景気に見舞われ、予算削減を余儀なくされた。市警察も残念ながら二〇〇人も一時解雇を強いられる結果となった。一九五五年に発足した警察官見習制度が全員一時解雇で終りを告げた。加えて九四人の警察官と多くの一般公務員とが解雇された。

一九七六年一月にミロン・レスラーが首席警察官に任命された。レスラー大佐は全米でたった八人の新隊長の一人であった。一九七七年には五つの分区すべてにおいて新しいパトロール方式が採用された。従前の巡回区域が大きくなって互いに境界を越えたので“Com.Sec.”の名称は廃止された。

前年に休暇を与えられていた二三名の警察官が復帰を許された。

一九七八年には警察車が新しい粧いを身にまとった。車のカラーが見なれたライトブルー（しばしば City Gray と呼ばれ

た）から白に変わったのであった。伝統的な市の紋章（車のドアにつけられていた）もアブストラクトな川と王冠（オハイオ川沿いの女王認証の町を意味する）に変えられた。

同時に二次的苦情処理班（SCO）が試験的にスタートした。広報課内に設けられた同班の目的はパトロールカーを急派する必要のない軽微な違反の通報を処理することであり、その目標とするところはパトロール班をより大切な仕事のために確保しておくことであつた。これは一九七九年一月に完全実施に移された。

一九七八年には捜査課に主要犯罪人対策班（MOP）が設けられた。この班の目的は慣習もしくは重要犯罪人の訴追を容易にすることにあつた。同班の警察官はハミルトン郡検事局と密接に協力して重要事件の処理の促進をはかっている。

一九八六年に犯罪仕置人（Crimestoppers）という番組が地方テレビで放映された。これは犯罪鎮圧に大きく貢献した。この番組はシンシナティミステリー（Cincinnati Mysteries）という未解決事件紹介番組に引きつがれ、市民の間に大きな関心を生んでいる。

四、シンシナティ警察の組織

市警察は大きく四つの部にわかれる。業務部 (Operations Bureau) 、捜査部 (Investigations Bureau) 、技術部 (Technical Services Bureau) 、人事部 (Personnel Resources Bureau) がそれである。それらの仕事の内容を以下に簡単に説明する。

(一) 業務部

市警察組織の中で最大のものであり、警察官の約八割がここに属して二四時間業務に服し、三八五、〇〇〇人を上廻る住民の安全を守っている。この部の中にはいくつかの班があるが、そのうちに犯罪予防班 (Crime Prevention Unit) は学校と協力してパトロールを行い、青少年の暴力的行動 (gang activity) に関する情報を収集している。

管轄は五つにわかれ、それぞれ第一分区 (District One) とか第五分区 (District Five) とか呼ばれる。各分区では定期のパトロールだけでなく、その地区特有の問題を処理している。たとえば第一分区ではダウンタウンでしばしば開かれる全国規模の催しに対処しなければならず、第五分区では大規模な麻薬犯罪に対処せねばならなかった。

(二) 捜査部

この部は麻薬、悪徳 (vice)、犯罪捜査、テロ・組織犯罪に関する情報収集について責任をもっており、捜査課、中央悪徳対策課、情報課、麻薬連絡課の四つにわかれる。

(1) 捜査課はさらに多くの班 (プログラムやプロジェクトも実行する) にわかれる。まず青少年救援班 (Youth Aid Squad) は子供の失踪だけでなく子供の虐待、放置、監禁などを扱う。最近その数がふえてきているので、子供関係の病院その他の連絡を密にして問題解決に努力している。

次の殺人班 (Homicide Squad) はすべての殺人、疑問死、重度の暴行、強姦、性犯罪 (被害者が一八歳以上)、警察官のからむ発砲もしくは死亡、すべての誘拐などを扱う。一九八七年に犯罪率は急上昇したが、これは一人の犯人が病院関係で多数の犯行を行ったからであった。

強盗班 (Robbery Unit) はラインナップ、境界をこえた犯行、特別な手口の犯行などについて分区警察の捜査を助ける。犯罪捜査学班 (Criminalistics Squad) は犯行現場に残された痕跡の分析、指紋による犯人の割り出し、弾丸の鑑定などを扱う。

夜盗・自動車窃盗班 (Burglary and Auto Theft Units) は文字どおり夜盗と車窃盗とを扱うが、過去二年にわたり連邦捜査局と協力して組織的犯罪との戦いや盗品の回復において著し

い業績をあげた。質屋班 (Pawn Shop Unit) は一九八七年において盗品回復や捜査の糸口発見に顕著な成績を収めた。ポリグラフ班は犯罪捜査のみでなく公務員採用試験でも手助けしている。

詐欺班 (Fraud Unit) は大シンシナティ地区の種々の法執行機関と連絡をとり、また銀行や実業界ともコンタクトを密にして新型詐欺罪の解決に努め、連邦警察に関連情報を提供している。一九八七年には新種詐欺事件の数は激増し、当管区でのドルの損失も甚大であった。

(2) 中央悪徳対策課 (Central Vice Control Section) は麻薬、売春、賭博、ポルノ関係の犯罪を扱う。併せて酒に関する法執行や苦情申立をも扱う。一九八七年には住民の協力をえて街娼取締りにも成功した。麻薬売買者 (Drug Trafficker) には特に目を光らせた。その結果多量の麻薬等を没収できた。

(3) 情報課 (Intelligence Section) は一九八六年から八七年にかけての世界フィギュアスケート選手権大会の開催とその準備とにさいし活躍した。その結果深刻な事件はなら発生しなかった。同課は狂信者、テロリスト、ギャングについての情報収集を常時行っている。

(4) 麻薬連絡課 (Narcotic Liaison Section) は地方麻薬対策班に専門家を送り、ハミルトン郡における多方面の麻薬対策に

協力している。そして多くの対策機関 (全米) に情報を提供している。

(三) 技術部

この部は市警察に対する広範な側面的支援を担当している。

たとえば記録の保管・運用 (Warrant/Identification Unit を助ける)、機器の管理運営、通信手段の整備などである。

(四) 人事部

あらゆる人事面を扱う。したがって警察大学校 (Police Academy) の運営に責任をもち、警察官への苦情があった場合、その調査をも担当する。

(五) その他

ここで便宜若干のデータを紹介しておこう。一九八七年の連邦警察の統計によれば主要犯罪 (Part I Offences) の解決率は表 A のとおりである。また市警察の年報一九八七年版によれば警察官の人数と給与とは表 B のとおりである。

表A

分 類	件 数	解決数	%
Homicide (殺人)	69	60	87.0
Rape (強姦)	344	245	71.2
Robbery (強盗)	1,184	455	38.4
Aggravated Assault (重度暴行)	1,571	1,322	84.2
Burglary (夜盗)	5,735	1,511	26.3
Larceny/Theft (窃盗/盗罪)	17,059	4,937	28.9
Motor Vehicle Theft (自動車盗)	1,243	565	45.5
Arson (放火)	554	73	13.2
合 計	27,759	9,168	33.0

表B

階 級 (Sworn)	人 数	年 俸 (ドル)
Police Chief (首席警察官)	1	62,443
Lieutenant Colonel (中佐)	5	51,508 ~ 53,828
Captain (大尉)	18	44,405 ~ 46,405
Lieutenant (中尉)	35	38,020 ~ 40,006
Sergeant (巡査部長)	120	33,458 ~ 34,487
Specialist (専門員)	139	31,155 ~ 32,109
Police Officer (巡査)	588	25,797 ~ 29,728
	計 906*	
*ほかに Non-Sworn 208名、School Crossing Guards (Part-Time) 111名が いる。		